

# 山形県連小会報

第139号

発行日 平成26年5月31日

発行者 山形県連合小学校長会

荒澤賢雄

山形市木の実町12-37

県教育会館(大手門パルズ)

## 県連小 第1回理事会報告

### 共に支え合い 組織力を発揮する校長会に

今年度第1回目の理事会が4月25日大手門パルズで開催され、新年度の方針、組織、運営について活発な協議がなされました。本号では、新任者挨拶、理事研修会の内容、教育委員会の講話等についてお伝えします。

#### 荒澤新会長のあいさつ



識見豊かな、飯野恭伸前会長には、県連小の進むべき方向性をお示いただきながら、力強く私達をリードしていただきました。後任者として、精一杯努めてまいります。よろしく願いいたします。

山形県内のすべての小学校、県内11地区に組織されている各地区校長会の連合体として存在しているのが山形県連合小学校長会です。山形県の小学校教育の振興と、県内のすべての児童が心豊かにたくましく成長するために、各学校、各地区校長会と緊密な連携と協力体制を構築しながら、県連小として一つにまとまり、取り組みを充実させてまいりたいと存じます。特に、現在、教育内容と教育に関わる環境の改革が早急に実施されようとしています。今こそ、県連小としての組織力を十分に発揮しなければならない時であると捉えているところです。諸課題に対する共通理解を図り、進むべき方向性を定め、共に手を取り合って課題解決に努めたいものです。

今年度の県連小の課題を3点申し上げます。

課題の第1点目は、県連小の組織と活動内容の見直しについてです。今年度は、昨年度の第3回理事会でご承認いただきましたように、専門委員会の組織と活動内容を抜本的に整理・統合していきたいと考えております。現在、いじめの問題や体罰問題、インターネットに起因する問題など生徒指導上の喫

緊の課題への対応が迫られています。また、山形県の第6次教育振興計画を見据えた研修活動の充実という新たな側面も大事にしなければならない時期に入ってまいりました。このような観点を踏まえ、県連小の組織力の強化を目指して、専門委員会の組織と活動内容を再構築していきたいと考えています。

課題の2点目は、平成29年度に予定されております東北連小山形大会へ向けた準備についてです。準備委員会で大会の大枠についてご検討いただいた後、本年度秋には、山形市小学校長会の校長先生方を中心にした実行委員会へ移行し、具体的な準備を進めてまいりたいと存じます。全連小山形大会を大成功に導いたという自信と誇り、そして、その時の計画・運営の貴重な経験等をフル活用し、準備を進めてまいりたいと思います。

課題の第3点目は、もうすでに足下にまで来ている国の教育改革への対応についてです。早急な教育改革に対して、私達も、教育現場の実情や現場目線での要望を適時に発信していくことが求められます。昨年度、全国学力・学習状況調査の結果公表についての意見書を全連小と県連小会長連名で県教委に提出しました。今年度も、行政機関や関係機関に提言すべき時は、適時に提言していきたいと考えています。その際は、各地区校長会へ意見の聴取をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

課題解決のためには、県連小という組織の凝集性を高めていくことが第一に求められます。改めまして、各地区校長会と会員の校長先生方のご理解とご協力をお願い申し上げます。



### 新副会長あいさつ



## 子どもの成長と 国の施策を見据えて

副会長 酒井 智子

このたび山形県連合小学校長会副会長を拝命し、身の引き締まる思いであります。

私たち校長会の全ての活動は、目の前にいる子どもたちに豊かな教育活動を行うためのものであるということを、常に肝に銘じていたいものです。そのためには、教員一人一人が自覚と責任を持ち、毎日の教育活動に当たることが肝要です。その一人一人の研修意欲と充実した教育活動の実践をいかに多く引き出すかが、私たち校長の役割であろうと思っています。

また、国では道徳や英語の教科化など、矢継ぎ早に新たな施策を打ち立ててきています。数年後に迫っているこれらの具体的な改訂内容についてもよく見聞きし、子どもたちに指導や評価が可能だろうか、教員の事前研修の機会は確保されるのだろうかという点でも注視していく必要があります。特に英語科については拙速に一気に始めるのではなく、1学年ずつ段階を追っていく方が無理なく研修も進められる等の、他国の例にならった意見もあります。

いずれにしても、子どもたちの確かな学力の保障と健やかな成長を見極めることと、国や県に対する具体的な提言をつなげていくところに、本校長会で私たちが議論を尽くす意味があるものと思っています。

微力ではありますが、荒澤会長さんのリードのもと精一杯がんばります。どうぞよろしくお願いいたします。



## 体験をとおして 感性を磨く

副会長 佐藤 淳一

小惑星探査機「はやぶさ」が、7年間もの大宇宙旅行を経て、小惑星「イトカワ」のサンプルを持ち帰ってからもう4年が過ぎようとしています。

ご存じのとおり、「はやぶさ」には、世界中から不可能とされた「イオンエンジン」が搭載されました。その開発に向けられた、若きエンジニアたちの先見性や独創性、そして情熱は世界に誇るべきものです。

それとともに、驚くべきことは、高度な電子機器を備えた大企業が製作を断念した「はやぶさ」の部品の多くは、ミクロンの違いを指で触れただけで感じ取ることができる、町工場のおやじさんたちの手で作り上げられたということです。まさにこの国のものづくりの真髄を見たような気がします。

私たち日本人は、森羅万象、すべての物のわずかな色や音、においや味そして手触りなどの変化や違いを大切にし、五感を磨きあげて、それを感じ取ることには大きな価値を見出してきました。その繊細な感性は、世界のどの人々も持ち合わせていないものであり、私たちがこれから世界で生きていくために極めて重要な特性であると思います。

やはり、小学生には、豊かな体験を可能な限りさせてあげたい。その体験をとおして身につけた感性こそが、自己実現をしながら、世界で力強く生きていくことのできる子どもの育成の根幹につながっていくに違いない、と強く感じているところです。

### 平成26年度 山形県連合 小学校長会 役員一覧

- 会長 荒澤 賢雄 (山形一)
- 副会長 酒井 智子 (山形三) 佐藤 淳一 (楯岡) 高野 博 (新庄) 平田 裕 (長井) 池田 公夫 (浜田)
- 監事 吉田 康之 (宮川) 元木 満 (天童北部) 阿部 雄宏 (大谷)
- 幹事長 高木 祐治 (山形二)
- 事務局長 後藤 一昭

地区	役名	理事 (◎地区代表)	対策委員	学校経営研究委員	調査研究委員
山形	◎酒井 智子 (山形三) 田中 淳 (山形五)	佐藤 孝一 (山形六)	渋谷 健一 (山形八)	大沼 智 (山形七)	
上山	◎三條 義昭 (上山南)	犬石 秀実 (中川)	岡村 廣 (西郷一)	村上 宏幸 (西郷二)	
東村山	◎庄司 健二 (山辺)	武田喜美男 (天童中部)	長谷川良和 (豊田)	加藤 昭男 (寺津)	
西村山	◎板坂 憲助 (寒河江)	奥山 淳一 (北谷地)	富樫 雅人 (幸生)	武田 幸一 (南部)	
北村山	◎佐藤 淳一 (楯岡) 元木 正史 (東根)	井上 博人 (長瀬)	渡辺 修 (大石田南)	武田 徹 (富並)	
最上	◎高野 博 (新庄) 伊東 博守 (日新)	長南 完治 (鮭川)	高橋 正彦 (真鍋あさひ)	高橋 幹弥 (有屋)	
米沢	◎須崎 登志 (興讓)	辻 雅人 (米沢南部)	三森 聡 (六郷)	樋口 哲弘 (万世)	
東置賜	◎島津 正道 (高畠)	清野 均 (亀岡)	原田 寧 (中郡)	小林 孝 (犬川)	
西置賜	◎平田 裕 (長井) 大村 亨夫 (飯豊一)	牛澤 敏宏 (平野)	山川 英俊 (蚕桑)	鈴木 正人 (飯豊二)	
田川	◎矢口 研一 (朝陽四)	升川 繁敏 (加茂)	須田 まき (横山)	鷺田 啓一 (西郷)	
飽海	◎池田 公夫 (浜田) 加藤 博之 (西荒瀬)	佐藤 弘 (松陵)	小松 恒彦 (泉)	鈴木 教正 (松原)	
担当理事			元木 正史 (東根)	板坂 憲助 (寒河江)	
幹事	幹事長 高木 祐治 (山形二)	加藤 雄一 (蔵王二)	田中 利幸 (南山形)	松澤 哲 (本沢)	
	会計 田中 利幸 (南沼原)	池田 友子 (村木沢)	最上 博之 (山形九)	田所 昭裕 (明治)	



## 校長会の充実を願って

副会長 高野 博

年度当初、様々な会合が開催されます。会では、ほとんど発言もなく、今年度の課題そして対応が明確にされず、今までとおりの事業を、そして同じやり方をとということが終わってしまうことがあります。前例踏襲は簡単で、事業も遂行されますが、本当にこれでいいのかと思ってしまうます。

校長会についてどうでしょう。校長個々が校長会にどう関わり、どんな考え、意識で参加しているかでも、参加後の満足度が違ってきているように思います。研修会や会合後のアンケートからそれが読み取れます。

今年度の山形県連合小学校長会の課題が明確に示され、特に組織の見直しについて、意見を集約することとなっています。新会長は、挨拶の中で、県連小の存在意義を発揮し、小中連携して組織的な対応ができるようにしたいと述べられていました。地区校長会においても学力向上という課題について取り組んでいくことになっています。

校長会を充実したものにするには、当たり前のことですが、校長自身が課題意識を高くし、組織への参画意識を高めることがさらに大事だと感じます。校長会の会議や研修に参加して良かったと思える一年にしたいものだと思います。

今年度、副会長として校長会の存在意義が高まるよう微力ながら精一杯努めてまいります。



## 確実なバトンタッチ

副会長 池田 公夫

昨年の暮れに帰郷した娘が、こんな話をしていました。年度末の人事異動で、今の学年には頼れる先輩の主任がいるけれど、新しい学年になったら自分が主任になるかも…。そんな話を聞いて愕然としました。娘は川崎市内で小学校の教員をしていて、30代になったばかりです。気になったので調べてみると、川崎市の教員の平均年齢はちょうど40歳位で、女子教員は40歳を割っていました(平成23年統計)。中規模クラスの学校であれば、20~30代で構成する学年があっても不思議ではないのかも知れません。

ちなみに本校の教員年齢構成は、数名の30代後半が最も若く、大半は40代後半~50代です。このような状況は、県内どここの学校でも大差はないと思います。つまり、今後10数年の間に教員の大量退職時代を迎える訳です。

連綿と受け継がれてきた山形教育の良さや、先輩達が腐心に創り上げ今に至る地域に根ざした学校、そして、直面する喫緊の課題や今後の教育改革等々、後輩達に確実に伝えていかねばと思いをめぐらす昨今です。

今年度、副会長というお役目をいただきました。県連小という組織体の中で、情報の共有化を図りながら、山形らしい教育、飽海らしい教育の推進に繋がるよう、微力ながら精一杯努めて参る所存です。どうぞ、よろしく願いいたします。

## 県教育委員会の御講話

### ◆義務教育課長 軽部 賢氏

- 1 H26義務教育課課題解決プロジェクト
  - 課題1「学力向上」
  - 課題2「英語教育」
  - 課題3「いじめ問題対策」
  - 課題4「家庭・地域連携」
- 2 課題1 学力向上に向けて
  - (1) マンパワーの活用…指導主事の活用を
  - (2) 思考力を高める問題開発・発信・活用
  - (3) モデル授業の開発・発信…フォーラムで発表
  - (4) 「読育」の充実…家庭・地域と一体で
- 3 課題2 英語教育、教員指導力向上事業
  - ・英語指導力向上セミナー(対象50人、各校1人)
  - ・英語教育推進リーダー養成研修(中央研修)
- 4 課題3 いじめ問題対策に向けて
  - ・スーパーバイザー派遣の講師増員(教育センター)
  - ・保護者の関心が高まっている。各学校の結果について説明責任を果たす。
- 5 課題4 家庭・地域との連携に向けて

- ・地域のよさ、整理・価値付けを。教育課程の中にもらさず位置づける。地域でよりよい体験を。
- ・土曜日の過ごし方について。子ども達は有意義な活動や過ごし方を行っているか検討が必要。



### ◆総務課教職員室長 阿部 善和氏

- 1 繰り返しの指導を
  - (1) 酒気帯び運転の絶無
    - ・教職員を守るため臨時校長会指導事項の徹底を
  - (2) 体罰禁止
    - ・定期的な研修会実施
    - ・ガイドライン、チェックシートの活用を
  - (3) 個人情報保護(USB)
  - (4) 交通事故・違反への取り組み
  - (5) 公金管理
- 2 新規採用職員へのケア…メンタル面は大丈夫か
- 3 女性管理職の育成
- 4 要精密検査受診6割止まり…確実な受診を

## 理事研修会より

今回の「いじめ調査」を受け、「いじめ」の未然防止と早期発見、その後の対応をどのように行っているか、各地区、各校の現状や課題等について情報交換しました。

### Q：いじめ調査を実施して、感じていることは

- 調査では、日頃から心配だと話題になっている子どもの名前が多く出てきた。教員同士で、話題にして共通理解していくことの重要性を改めて感じた。
- 親子の話し合いが少なく十分な理解がないまま、子どもの話を鵜呑みにして、いじめとしてあげられたものが多々あり事実確認に苦慮した。時期として3月に実施したことはよかった。学校のいじめ基本方針について、PTA総会で保護者に説明することができた。
- 調査をする際、どのような説明をして行ったかによりあがってくる数はかなり違ってくる。本校でも多数あげられたが、事実確認を丁寧に行った。一つ一つ丁寧に確認することが大事なことである。結果的にいじめとして認知されたものはほとんどなかった。
- これまでも、定期的に調査を行ってきたがいじめとしてはあがってこなかった。今回、多くの項目で確認したことで、子ども達の心に気づくことができたことは成果だった。保護者が、直接警察などの機関に相談する時代である。警察などとも情報共有できるようにしていくことが求められている。
- 今回の調査でいじめと結びつかないような情報も多く出されたが、子どもたちの心に気付くチャンスだった。調査では、子どもたちの心を引き出すような問いの工夫が必要である。結果にどう対応するか、「大丈夫か。」で片づけない、教師のアンテナの感度を上げることも重要。
- いじめ調査の事実確認、非常にむずかしい。受け手の事実を、両者が納得するのはむずかしい。折り合わなければならない。解決を急いではいけない。時間をかけて対応する必要がある。保護者にも待ってほしい。

### Q：未然防止、早期発見に向けてどのような取り組みを行っているか

- いじめなのか、それとも乗り越えなくてはならない事例なのかその判断がむずかしい。担任の子ども理解が重要。今年度個別面談を増やし、子どもと話す機会を多く持つようにした。先生に聞いてもらえるという温かい雰囲気を作りたい。
- 6月と11月のアンケートと個人面談を実施、子どもと語る会の成果を感じている。普段から、コミュニケーションが取れるよう、何でも話せるような雰囲気作りを大事にしている。
- 今回の結果をどう整理し、仕分けるかが大事である。内容のレベルに分け付箋で色分け区分して対応した。何より未然防止が大事である。常日頃からどんな学



- 級作りをしていくか、ソーシャルスキルなど取り入れながら望ましい人間関係づくりをめざして取り組んでいる。保護者も過敏になっている。保護者自身が問題を抱えている場合もあり、対応が難しい。
- 授業中のかかわり、つながりを大事にしている。双方向のかかわりになっているか。うなずき合える関係になっているか。何でも話せる学級づくりが基本である。さらに、個人面談旬間の設定、縦割り班活動の重視により、未然防止、早期発見に向けて取り組んでいる。
- 中学校と連携して、ネットの危うさに対応してきた。連合PTAと校長会と協力してリーフレットを作成しPTA総会で配布した。スポ少でのトラブルについては主たる窓口は市の生涯学習課となり、複数の学校にまたがるようなトラブルについても、対応してもらいことができるようになった。
- いじめを生まない学校、学級づくりにエネルギーを注ぎたい。楽しい学校、認め合える学校では、意地悪な行動は多くはならない。アンケート調査だけでなく日頃の小さな気づきとその共有が大事である。
- 学習指導、生徒指導、健康安全にかかわる調査、多数行っている。組織的な対応をしていかないと改善策には結びつかない。
- 毎日見ていると見えなくなることもある。「最近、あの子暗いね…」など、地域の人の声も大事にしたい。日頃から、何でも話し合える関係づくりが大事である。

## 会長所感

いじめが起きてからの対応は明確にされてきたが、いじめを生まないための教育の在り方、根本の問題についてはさらに論議を深めていく必要がある。未然防止、早期発見は、法律の制定だけでは対応できないところ、学校が努力していかなければならない。

「アンケート調査」、「QU心理検査」など、これさえやっていたら発見できると調査や検査が最大の取り組みになってはいないか。子どもとのかかわりを大事にする、教師としてアンテナの感度を高めるなど、日々の授業の中で子どもと向き合う時間を大事にし学校教育本来の力を発揮していくことが重要である。

ネットいじめについては、県連小が組織的に取り組んでいかなければならないと感じた。市教委、警察、法務局など多様な機関と連携を取って対応していく必要がある。ネットパトロールの情報共有も必要を感じている。様々な取り組みをお聞きし、大変勉強になった。ありがとうございました。